

黒田徳米（1886～1997）

日本の貝類学の礎を築いた貝類分類学者で、日本の貝類分類学創成期における随一の研究者である。兵庫県淡路島福良（ふくら）に生まれる。1901年（明治34）京都に移り、平瀬与一郎が創設した平瀬介館（のち平瀬貝類博物館）に勤め、事業を助けるとともに貝類研究に従事する。1921年（大正10）京都帝国大学理学部地質学鉱物学教室助手となり、標本・図書維持管理にあたり、1937年（昭和12）台北帝国大学理農学部に移り、1940年辞任した。以後、京都帝大理学部附属瀬戸臨海実験所、資料科学研究所、連合国最高司令部（GHQ）天然資源局などに嘱託、顧問として関与した。この間、1928年日本貝類学会設立に参画し、1948～1963年（昭和23～38）同学会会長、以後名誉会長となる。

西宮貝類館

1999（平成11）年5月7日に開館した貝類専門の博物館・西宮貝類館には、黒田徳米博士の学術資料を核とした約10万点の標本が所蔵されています。また、西宮貝類館は建築家安藤忠雄氏が設計されました。ヨットの帆をイメージした建物で、館内は海の中を思わせるブルーで統一されています。

